

松 風

■発行所 流通経済大学校友会 tel 0297-64-0001
■〒301-8555 茨城県龍ヶ崎市平畑 120
■発行人 佐藤 克實

創立50周年記念特別号

帝国ホテル祝賀会



会場入り口、受付



理事長 挨拶



学長 挨拶



壇上風景



壇上 来賓



私立大学連盟副会長
鎌田早稲田総長祝辞



鏡割り



ベイヤ インテリオール大学
学長 祝辞

平成27年11月13日 午後6時より 流通経済大学創立50周年記念祝賀会が帝国ホテル 富士の間にて開催されました。大学主催で主に対外向けのレセプションでした。700余名の出席者で会場は満員で盛況でした。校友会は役員のみ出席（招待）となりました。各界より祝辞を戴いた中で、特に印象付けられたのは奥野誠亮氏、現日通学園理事、102歳、乾杯の挨拶であった。名前だけの理事だったらやらないと今も理事会に出席しておられるとのこと。年齢を感じさせない声の張りと、かくしゃくぶりには会場驚きの声に包まれました。



佐藤校友会長 祝辞



校友会 出席者

ホームカミングデー



青空に富士を望む



池の散歩道より



アリーナ入口 なつかしの写真展



思い出の情景を語りあう



歴代のつくだね祭のパンフレット 自分の時を探す

2015年12月5日 ホームカミングデーが開催されました。初冬のの晴れた青空の向こうに雪に覆われた富士山が望めました。学生時代親しんだ稲敷の風景です。訪れた校友に特別な思いを抱かせる良き日となりました。

大勢の人が参加されました。なつかしい、あるいは久しぶりに訪れ様変わりした、キャンパスの見学。創立当時のキャンパス風景や教職員、学友の写真。また現在活躍中のスポーツ部のユニフォームの展示や販売、活動報告のコーナーもありました。同時にいろいろなイベントが催されていました。

校友会総会

参加された校友 満員の教室



Copyright(C) 流通経済大学校友会 All rights reserved.



事務局よりの活動報告を聞く



佐藤会長挨拶



地区支部長紹介



校友の質疑



支部長挨拶



ホームカミングデーにあわせて 校友会総会が開催されました。見晴しの良い5号館7階の571教室に170名を超える校友が参加されました。佐藤校友会長（1期）を議長に、齊藤事務局（7期）から校友会活動の説明がありました。その後、校友との質疑、応答の中で「スポーツの活躍は頻りに報道されるが学業面での内容も聞きたい」との意見があり、宮本学生部長（14期）から奨学生制度や2キャンパス制一龍ヶ崎、新松戸一についての説明が有りました。教員となられた校友から、校友会の観光クラブや社会福祉会のように、「教員の職域部会」を立ち上げたいなどの意見も出されました。全国の校友会支部長の紹介と支部長より各支部の活動紹介がありました。

龍ヶ崎キャンパス 祝賀会



15:30より、メインアリーナで祝賀会が開かれました。野尻学長、佐藤校友会会長の挨拶があり、鏡割り、乾杯と続き懇親会に入りました。卒業年代グループにつくられた小テーブルに集まった校友が互いに懐かしい顔を見つけ挨拶を交わす姿がそこかしこにありました。また、余興として龍ヶ崎市長もご参加の「龍神太鼓」の演奏やチアリーディング部「グリッターズ」の演技披露などがあり盛会となりました

参加者への記念品

記念誌 エッセイ集『つづくやかぎりなく 第1集』



50周年記念ロゴ入りスポーツタオル



第2回

平成27年度

幹事会開催

平成27年12月5日 10時～12時 龍ヶ崎キャンパス特別会議室で第2回幹事会が開かれました。通常、2回目の開催月は9月頃ですが今回はホームカミングデーと祝賀会に合わせてこの日になりました。イベントとタイアップした為、幹事、事務局合わせて46名の出席となりました。久しぶりの龍ヶ崎訪問という幹事も多数おられました。多数の一般校友と交流でき、50周年記念イベント中という一種祝賀ムードに包まれた特別な会議となりました。



審議事項

1、支部長交替人事

埼玉支部長 新任 西原淳一 (6期)
 神奈川支部長 同 増沢憲雄 (3期)
 東京支部長 同 薄田春男 (3期)

経緯の報告と御挨拶がありました。

2、今年度 今までの活動報告

○大学祭援助 青春祭、つくばね祭
 予算どうり 68万
 ○諸行事援助
 7月24日 野球部祝賀会祝金 10万

11月21日 陸上競技部一部昇格
 祝賀会祝い金 10万

3、50周年記念事業

○留学支援 本年度分大学へ
 寄付納金 100万
 一部実績 1名 韓国へ
 ○国際交流 南オレゴン大より
 学生受け入れ
 平成28年6月ころ 5名 2週間位
 で計画中
 ○学生自主活動支援
 おしゃべり場プロデュース
 外国人観光客へのボランティア
 (ユニホーム作成)
 テーブルマナー向上実行委員会

大学生観光街づくりコンテスト
 出場費用
 合わせて 40万

○正課支援

国際観光先輩キャリアの話
 を聴こう 高橋先生
 東日本の今を考える
 聞き取り調査 箕輪先生
 観光インターンシップ意見交換会
 高橋先生
 合わせて 23万

○研究課程進学者支援
 (実績なし)

事務局より一選定、評価等具体
 作業非常に難しい。重要性の
 指摘は認識している。再考。

○50周年祝賀会祝金

11月13日 帝国ホテル

本日 ホームカミングディナー関係

共に全額大学負担とする。

校友会協力金として予算計上し

た 実績なし

○予算外

RKUtoday 記念号 送付費用

30期まで分の17000名大学と折

半。30期以降は大学負担

148万

新体操部演技発表会祝金

経営学科マザーズプレゼン大会

商品(図書券)

合わせて 5.6万

なお当案件と合わせて、体育部等の対外試合への付属高校よりの応援協力の感謝、慰労(金、物)等については、小額ではあろうが重要なので事務局判断で適時適切に実施して欲しいとの意見があった。

○ホームカミングディナーについて

約 600名の参加

午後3時より受付

費用 大学負担 (前出)

概要 前出 写真等参照

記念品 エッセイ集1部

記念ロゴ入りスポーツ

タオル、紅白饅頭

今後の開催日について

平成28年度はつくばね祭に合わせて実施したい。校友会幹事会も同様 現役学生の活動状況の把握対話等触れ合いが持て認識が深まる。

○エッセイ集の刊行について

完成。本日、大々的に配布、発表。

99名寄稿。今回を第1集として

次号も計画する。

○校友会から大学への50周年記念事業募金について

種々意見が出たが、当会の資産、予算規模、大学よりの要望等より

2000万円 を妥当とした。

今年度中に寄付を実施する。

4、校友会幹事の選出について

平成28年度第3回幹事会にて選出する。(27年度実施予定より1年延期)平成29年度5月の大学評議員の改選に合わせることにしたため。28年11月より告示する。

5、今後の支部総会予定

確定分の報告、計画中の聴取がされた一々確定分はホームページにて御確認ください。

6、その他

女性会員の活動への積極参加(支部役員等)の必要性、支部総会への会員の出席増の施策などについて意見が交わされた。

編集後記

創立50周年式典関係をまとめました。残念ながら参加できなかった会員の方々に少しでもその雰囲気を感じてもらえたらと思います。50年という半世紀にわたる年月が大学、校友にとってどういう意味を持つのかと思いをめぐらす機会ともなりました。特にある人達にとってはあの始まりの時から共に人生を歩み始め、ある種一つの到達点である50年目という今此処にいる。自分の人生と重なる特別な年月なのである。あの時から全てが始まったのだと。ここ1、2年、周年記念関係で会員と接して、特に創立時1～4年次の方々の思いに特別なものを感じました。

ここで記念誌として編まれたエッセイ集‘つづくやかざりなく 第1集‘を取り上げたい。寄稿者が100人弱と限られてはいるがまさにエッセンスが詰まっている。個人に割り当てられた字数は限られており、記された内容は自分が立ち会った事実と特定の切り取られたエピソードが主だ。個人史の列挙であるが、その各々の個人史が互いに関連し集団史、大学史となっている。

なにかおぼろげながらも確かな人間たちの歩みが見えてくる。今隆盛を誇るサッカー部、ラグビー部、野球部の草創の部員集めから、よき指導者を得て次第に整ってゆく姿を語る声はその場で活きた本人の生の声の連続としてひとつの物語である。個人個人は全体を語ってはいないが多数が同じ事について語ることによって物語が明らかに立ち上がってくる。又、草創期校友のゼロから作り上げねばという活躍のパワー、熱気というものを改めて感じた。今までも個人的に語り聞くことはあったが、文章としてまとめて列挙されると改めて実感されるのである。

一方このような回顧的なものはある種成功者に偏った自慢話に陥りやすい。だがある種マイナス的な面も事実として語られている。その時を同じくした校友達にとっては複雑な思いでもあり共感するところでもあろう。家庭的、経済的、そのときの己が能力的事情でここを選ばざるをえなかったこと、遠いところからこの田舎に都落ちのごとく来た不安、少なからず その当時多くの人達が思ったであろう事も語られていて生々しい。読み終わってみると何か大きな姿がみえてくるが、語られていることはその人個人の長い人生のたった4年間だけなのである。

語るときがない。想いはまさにひとそれぞれ多種多様である。会員諸氏にはまず手にとって読んでもらいたい。何か感慨を得ること確実である。語られなかった事実も他に多くあると思う。幸いにこれは第1集とのこと。この集に触発されて各会員の思いを第2集へと反映、結実してほしいものである。

S生記